



共生社会を豊かに生きる力を育てる

校長 小林 理人

先日、長女の結婚式がありました。式中、誕生から結婚までの思い出をスライドで紹介する企画があり、成長の歩みを振り返ることができました。

長女は、私たちの初めての子供であり、両家にとっても待望の初孫ということで、大人の愛情を独り占めして育ちました。しかし、間もなく、弟や妹が誕生し、彼女の立ち位置が少しずつ変わっていきました。彼女もそのことを感じ、母親との関係、大人との関係、兄弟や妹との関係づくりを試行錯誤しながら学び、同時に幼稚園、小学校の集団生活も始まりました。

幼稚園や小学校では、生活の仕方や考え方など、これまで彼女が育った価値観の違いへの戸惑いもあったようです。そして、学年が上がると学校生活や、友達との人間関係づくりが日常生活の大半を占めるようになりました。その頃のスライドでも、笑顔の彼女でしたが、笑顔の裏には、写真には写らない苦労や涙もあったようです。中学校を卒業した後のスライドには、私が初めて見る顔もあり、我が子の成長や自立に大きくかかわってくださった多くの方の存在を再認識するとともに、感謝の気持ちでいっぱいになりました。

「人は人との関係で成長する。そして、それが『人間』といわれる所以である。」という話を聞いたことがあります。私たちは、様々な人とのかかわりを通して人間として成長します。私は、改めて我が子の成長を支えてくださった皆さんから教えていただいたような気がしました。そして、人とのかかわりを通して成長する本校の子供たちの姿が、我が子の成長と重なりました。

小学校の役割

小学校に入学し、集団生活をスタートした1年生は、担任との1対1の人間関係をベースに、担任の指導下で友達同士の関係づくりを始めます。やがて、子供相互の関係づくりが始まり、ギャングエイジを迎えます。その時期になると、友達とのトラブルや失敗が多くなります。そして、そのトラブルや失敗、解決をした経験が糧となり、高学年になる頃には、自分たちの力でよりよい人間関係をつくることができるようになってきます。小学校は人が人間として成長するために、人間関係づくりを学ぶ場とも言えます。

共生時代を豊かに生きるための力を育てる

子供たちが生きる未来は「多様性の時代」「共生社会」と言われています。自分とは違う個性や考えを受け入れ、よりよい関係を築きながら生活や仕事をするようになります。そして、その基盤となるのが「自己理解」や「他者理解」と言われています。

多様性の時代、共生社会で豊かに生きる力を育てるために、私たち大人がすべきことは何なのでしょう。

小学校では、集団生活の中で、様々な友達と楽しく遊んだり、学習したりします。また、時にはトラブルや失敗を経験して自分や友達の特性を理解します。そして、自分と友達の違いを受け入れたり、折り合いをつけたりすることなど人間関係づくりの手段や方法を学習します。

また、よりよい人間関係をつくるためには、コミュニケーションとしての「言葉かけ」が重要なアイテムになります。よりよい関係をつくる「ふわふわ言葉」や、関係を壊す「ちくちく言葉」の存在に気付かせたり、「ふわふわ言葉」を使う心地よさを味わったりすることがよりよい関係づくりには欠かせません。

子供の実態から生活目標を見直す 積極的な生活指導

10月の生活目標は「友達となかよくしよう」でした。年間計画では「きまり正しい生活をしよう」でしたが、子供たちの生活や運動会での成長した姿などから生活指導部の教員が話し合い、更なる改善、向上をめざし、積極的な生活指導に挑戦することにしました。そして、6月に「ふわふわ言葉」を中心に取り組んだことを基盤にし、更なる改善、向上ができるように年間計画にある目標を変更することにしました。

具体的には、「友達となかよくしよう」を2か月間(10月~11月)の生活目標とし、「ふわふわ言葉」を活用して、友達とのよりよい関係づくりに取り組みます。11月末に予定されている学芸会では、この取組を通して成長した子供たちや学校の姿を、皆様に紹介できるようにしたいと思います。